

令和6年度 川西町「全国学力・学習状況調査」の結果

はじめに

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、以下の3点を調査の目的としています。まず1点目、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。2点目は、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。3点目は、その取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するとしています。

今年度の学力・学習状況調査は、4月18日に川西小学校の6年生を対象として、国語と算数の2教科で実施されました。その調査問題は学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題や、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善につながる問題が出題されました。

川西町教育委員会では、児童生徒質問調査の結果も併せて、今年度の全国学力・学習状況調査の結果の分析を行い、ここに公表させていただきます。そして分析結果を踏まえて、本町の学校教育の目標である「確かな学力の育成」、「豊かな人間性の育成」、「たくましい心身の育成」を追求し、「夢と希望にあふれ、いきいきとした子どもの育成」を目指して、学校教育の改善を図っていききたいと思っております。

なお、本調査結果は、学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面に過ぎないこと、また、学校では様々な教育活動を進めていることを十分ご理解いただきますようお願いいたします。

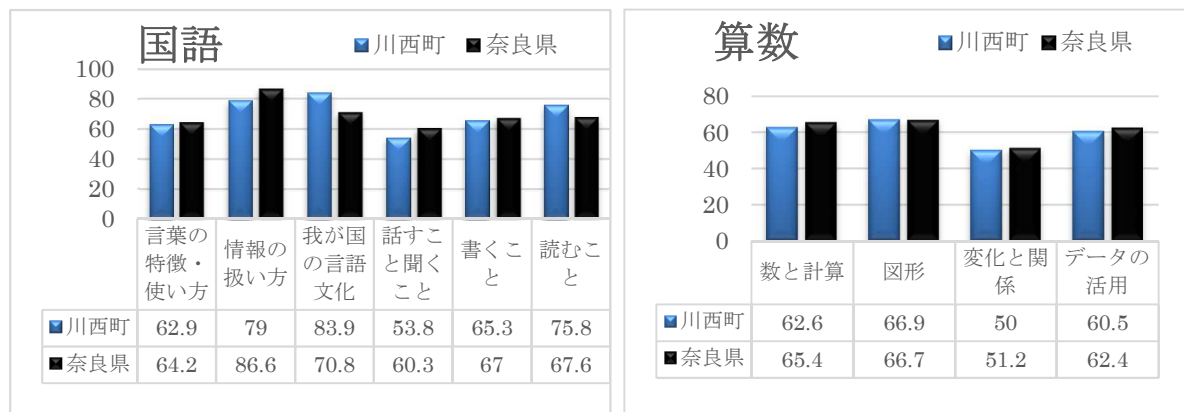
また、本町の学校目標を達成するには、学校と地域・家庭との連携が不可欠です。今回の公表を通して、さらに教育への関心を高めていただく一つの機会となることを願っております。皆様方には、今後とも変わらぬご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

川西町教育委員会

教科に関する調査 《平均正答率と平均正答数》*平成29年度から、国からの都道府県別の平均正答数の提供が整数値となったため、県・町の平均正答率を整数値で示しています。

		国 語	算 数
川西町	平均正答率	67%	62%
	平均正答数	9.3問/14問	9.9問/16問
奈良県	平均正答率	67%	63%
	平均正答数	9.3問/14問	10.1問/16問
全国	平均正答率	67.7%	63.4%
	平均正答数	9.5問/14問	10.1問/16問

正答率構成グラフ 《学習指導要領の領域別正答率》%



<結果の概要>

【国語】奈良県平均正答率と同じ結果でした。

- 学習指導要領の内容で大きく2つの分類ができます。1つは知識及び技能(言葉の特徴や使い方、情報の使い方、我が国の言語文化に関する事項)ともう1つは思考力・判断力・表現力等(話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと)です。知識及び技能の分野では、我が国の言語文化に関する事項は+13.1%と高い一方で情報の扱い方に関する事項は-7.6%と低くなっています。また、思考力・判断力・表現力等の分野では、話すこと・聞くことが-6.5%、書くことが-1.7%ですが、読むことに関しては+8.2%と高く、このことに関する出題3

問において全て県の正答率を上回っています。物語の登場人物の心情、人物像や物語を具体的に想像する力は備わっていると思われます。

【算数】奈良県平均正答率よりわずかに低い結果でした。

- 学習指導要領の4つの区分から出題されています。数と計算の分野では-2.8%でしたが、問題場面の数量の関係を捉える問題に限ると県より-10.9%と低い結果です。図形の分野は+0.2%でしたが、立体と球の関係性を捉える問題では誤答率が66.1%で、その内の無回答率が9.7%と課題の残る結果です。一方、角柱を扱う問題では県より正答率は高くなっています。変化と関係の分野は-1.2%でしたが、速さの意味を理解している児童は+9.8%と高い結果でした。データの活用は-1.9%ですが、折れ線グラフから必要な情報を読み取る問題の誤答率は61.3%で、その内の無回答率が10.4%となっています。また、数学的な考えを数字や式を使って記述する問題でも無回答率が4.8%と割合が高くなっています。このことから、児童の算数の得意分野と不得意分野がはっきりと表れる結果になっていますので、より学習課題を明確にした授業改善に取り組む必要があります。

児童質問より 《特徴的な項目比較》 ※各表の数値の単位は%です

＜学習に対する関心・意欲・時間等＞(抜粋)		
項目	川西町	奈良県
国語の勉強は大切だと思いますか	94.9	94.5
国語の授業はよくわかる	79.4	86.4
算数の勉強は大切だと思いますか	96.6	94.6
算数の授業はよくわかる	83.1	82.4
英語の勉強は好きですか	66.1	64.7
英語の勉強は大切だと思いますか	96.6	91.6
学校授業以外に、平日まったく勉強しない	16.9	7.6
土曜・日曜にまったく勉強しない	39.0	20.2
1日あたりスマホでSNSや動画視聴を3時間以上する	42.4	23.0
先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	89.9	87.6

学習に関する質問事項からは、国語や算数、英語などの学習は大切だという高い意識を持っていることが分かります。しかし、「英語が好きですか」の質問には、少し低調な回答になっています。教科が好きになるためには、その教科が「わかる教科・授業」であることは大切です。「先生は、わかるまで教えてくれる」と児童は回答しています。児童と先生が一体となって国語・算数を含め、「わかる教科・授業」を目指すために、授業内容や学習方法の見直し、興味を引き出すための工夫を行うことが必要と考えます。また、家庭において、自分で学習に取り組む姿勢を養うことが大切です。

＜規範意識、自尊感情及び社会に対する関心＞(抜粋)		
項目	川西町	奈良県
朝食を毎日食べていますか	89.9	92.0
学校へ行くのは楽しいと思う	76.3	83.3
いじめはどんなことがあってもいけないと思う	100.0	96.9
人が困ってる時は進んで助けている	93.2	92.8
人の役に立つ人間になりたいと思う	96.6	96.0
自分には良いところがあると思う	84.7	83.7
将来の夢や目標を持っている	78.0	80.7
先生は、あなたの良いところを認めてくれる	89.8	91.0
地域や社会をよくするために何かしてみたい	83.1	82.9

基本的な生活習慣として、「朝食を毎日食べていますか」は県より-2.1%、全国より-3.8%と少し低調です。一方、自尊感情と社会的関心については県と比べても高い結果が見られます。「学校に行くのは楽しいと思う」の問いに、県より数値が低くなっています。しかし、「先生は、あなたの良いところを認めてくれる」という問いに対して「当てはまる」とはっきりと回答した児童は61%おり、県や全国の数値を上回っています。児童と教員の良好な関係が基本的に築けていると思われるので、その良い関係性を生かし、学習や行事が楽しい学校を目指していければと考えます。

＜ICTの活用について＞(抜粋)		
項目(5年生までに受けた授業において)	川西町	奈良県
ICT機器を週3回以上使用しましたか	55.9	53.1
ICT機器を活用することで、		
①自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	83.0	83.8
②分からないことがあった時に、すぐ調べることができた	91.5	91.8
③楽しみながら学習を進めることができる	88.1	85.6
④画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる	86.5	88.8
⑤自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	83.1	77.2
⑥友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	89.8	84.7
⑦友達と協力しながら学習を進めることができる	93.2	87.3

ICT 機器の活用は、県と比較しても活用率は高くなっています。そして、調べたり、学習に利用するだけでなく、自分の考えを分かりやすく伝えるためのアイテムとして、また友達と考えを共有したり協力したりする手段としても学習に活用していることが分かります。ただし、活用率は全国平均(59.5%)には達していないので、今後もICT 機器を有効に使い、より主体的・対話的で深い学びにつながる活用を進めていきたいと考えます。

本年度の調査結果を振り返って ～小学校～

国語の問題の内容別正答率で、登場人物の心情や人物像を読み取る問題の正答率が高い結果が出ました。これは本校が大切にしている読書活動の成果であるとともに、児童たちが自ら本に親しみ、本を読むことを楽しんでいるからだと思います。読書から得られる知識や想像力をどんどん身につけて、さらに感性豊かな児童の育成に取り組みたいと思います。そして、今回は「A話すこと・聞くこと」の結果が全国や奈良県より低い結果でしたが、これからは読書の楽しさ、面白さを周りの友だちに広めていく活動を行っていきます。読書感想文や読書感想画などの取り組みもそうですが、今は1人1台端末を活用することで、簡単に自分の意見や感想を書き込み、また、他人の意見を読むこともできます。お互いの意見を交流することで、より深い学びを身につけることができます。今後さらにICTを活用して、「聞く力、読む力、書く力」を高めます。

算数では、展開図や見取り図といった図形の問題や、円グラフの読み取りといった問題の正答率が高く、一方、時間と速さの関係性から理由を文章で書かなければならない問題において、数的な関係性は分かっているが理由をしっかりと書けない児童が多くいました。児童たちは、じっくりと考えて答えを導き出すことに苦手さをもっているようです。日頃から自分の考えた過程やなぜそう考えたのかを整理して表現できる力を育てたいと考えています。

また、算数の正答率のグラフを見ると、算数を苦手とする児童が多いことも分かります。算数は教科の特性上、低・中学年で学習内容が基礎となり、高学年で応用的に活用していくため積み重ねが大切な教科です。学習の内容が分からないまま次の単元に進むことが無いように、個別の学習の定着度を明確にし、「どこでつまづいているのか」「どの学習方法で最も理解が進むのか」等、各担任と課題を共有して個別最適な学習を行うことが重要であると考えます。

これらのことから、次の3点を強化していきます。

- ① 朝学習の時間を活用して、計算や漢字など基礎基本の定着に注力します。
- ② 学習の終わりに短い文章でまとめを書いたり、行事等の感想文を書いたりするなど、日頃から文章で表現することに慣れる為の取組を行います。
- ③ 各学年で達成したい読書目標に沿って、年間を通して段階的にレベルアップできるように読書活動を行います。

調査結果から川西町の教育について考える ～教育委員会～

◎学校教育のスローガンは「思考力を高める川西の教育」です

(1) 「確かな学力の育成」を目指します

「授業で考えをまとめる活動を行い、次の学習につなげることができた」児童生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向があります。基礎的な知識・技能並びに、これを活用した思考力・判断力・表現力等や主体的に学ぶ態度を大切にした「学習者が主体となる授業改善」に取り組む必要があります。対話を通して自らの学びを深め広める「確かな学力の育成」の推進で、学力向上を追求します。

(2) 「豊かな人間性の育成」を目指します

豊かな人間性は、他の人を思いやる心や社会貢献の精神、生命や人権を尊重する心、正義感や公正を重んじる心、自律心や責任感です。共生社会を展望し、社会奉仕体験活動や自然体験活動等、豊かな体験的な学習活動の充実に努め、学校生活のあらゆる場面で「豊かな人間性の育成」を目指します。

(3) 「地域と共にある学校・園づくり」を目指します

家庭や地域住民と共に子どもを育てていくという視点に立ち、学校、家庭、地域社会がそれぞれ本来の教育機能を発揮し、協働活動を進めながら「地域と共にある学校・園づくり」を目指します。

保護者・地域の皆様へお願い ～家庭～

- (1) 1日のスタートを大切にしよう！ ➡ 家庭の責任で、朝食をしっかり食べて元気な1日にしよう。
- (2) 見守り、声をかけよう！ ➡ 生活リズムの中に家庭学習の時間をきちんと位置づけよう。
- (3) ルールを作ろう！ ➡ スマホでのSNSや動画の視聴時間など親子で話し合おう。
- (4) ほめて伸ばそう！ ➡ 良い所を伸ばし、くじけず難しいことにも挑戦する心を育てよう。
- (5) 家庭での読書習慣を定着させよう！ ➡ 親子で読み聞かせや読書する機会を大切にしよう。